

統一論題 「ユビキタス社会におけるコントロールと文化基盤の考察」

<p>< 基調講演 ></p> <p style="text-align: center;">個人情報保護とその管理</p> <p style="text-align: right;">弁護士 / 個人情報保護専門監査人 稲垣 隆一</p>
<p>< 発表要旨 ></p> <p>個人情報保護は、「わが社における個人情報保護「法」への対応にとどまらない。それは、情報ネットワーク社会における人間との関係をどう構築するかというコンプライアンス経営と責任体制の構築に他ならない。これをどう構築するか。そこにおけるシステム監査の役割は何か。皆様とともに考えたい。</p>
<p>< 発表1 ></p> <p style="text-align: center;">FISC の情報漏洩に関する安全対策</p> <p style="text-align: right;">(財)金融情報システムセンター 監査安全部長 郡山 信</p>
<p>< 発表要旨 ></p> <p>金融機関がコンピュータシステムの安全対策を実施する際の業界標準であるFISC安全対策基準をベースに、個人情報を中心とした情報の漏洩対策についての金融業界の取り組み状況と、今後の課題について述べる。</p> <p>(1) FISC 安全対策基準の概要 (2) 情報漏洩対策に関連した安全対策基準項目 (3) 情報漏洩対応状況 (4) 今後の課題</p>
<p>< 発表2 ></p> <p style="text-align: center;">システム監査とITガバナンス</p> <p style="text-align: right;">日本大学 商学部 教授 堀江 正之</p>
<p>< 発表要旨 ></p> <p>IT ガバナンスの本質は、IT 戦略の有効かつ効率的な実現と、IT リスクや IT の運用・管理に関する情報開示にあります。本報告では、とりわけ後者の情報開示に焦点を当て、開示情報の監査という新しいシステム監査の在り方を提唱し、その理論上・制度上の意味と問題点を明らかにしたいと思います。</p>
<p>< 発表3 ></p> <p style="text-align: center;">情報セキュリティ教育の普及・展開に向けて</p> <p style="text-align: center;">- 「情報セキュリティ教育カリキュラム(モデル)解説」の効果的な活用法 -</p> <p style="text-align: right;">情報セキュリティ研究プロジェクト 櫻井 由美子</p>
<p>< 発表要旨 ></p> <p>本研究プロジェクトは、2001 年度からスタートしており、予ねてから社会人のみならず高校生や大学生への情報セキュリティ教育の重要性に着目し、教育カリキュラムを研究してきた。昨年度までの成果物としては「情報セキュリティ管理規定(モデル)」や「情報セキュリティ教育カリキュラム(モデル)」等がある。(HPに公開中)</p> <p>本年度は、更に一步進めて教育を実践するに当たっては、講師がコース設計やテキストを作成する際に、よりどころとなる具体的な情報が必要になると判断し、「情報セキュリティ教育カリキュラム(モデル)」に解説を加えることを主な活動としてきた。また、企業においては新入社員や管理職向け等、教育機関においては高校生、大学生向け等、また行政機関においては行政の情報セキュリティ管理者向け等のケース別教育プログラムも合わせて検討してきた。本シンポジウムではその研究成果を報告する。</p>
<p>< 発表4 ></p> <p style="text-align: center;">日本生命保険相互会社におけるシステム監査事例</p> <p style="text-align: right;">日本生命保険相互会社 検査部 専門課長(システム監査) 片岡 学</p>
<p>< 発表要旨 ></p> <p>ここ2～3年、金融機関をはじめ、情報システムの信頼性を損なうリスク(システムトラブル)が顕在化している。急激に情報処理システムや金融検査の環境が変化しつつある中、いかに情報システムの信頼性を確保していくかについては、システム監査人としても十分な貢献を果たす必要がある。</p> <p>「システムトラブル」をキーワードに行っている、情報システムの信頼性の確保に向けたシステム監査活動を中心として、日本生命保険相互会社における最近のシステム監査への取り組みの実施例を紹介するとともに、当社におけるシステムリスク管理体制やシステム監査の実施体制、実施概要について、報告する。</p>